

深澤晟雄資料館

住民の生命を守るために
私の命をかけよう

国がやらないのなら私がやりましよう

「貧困」「多病」「豪雪」を克服するために
命をかけた旧沢内村の「生命村長」 深澤晟雄

■ 開館時間 午前 9:00～午後 5:00 ■ 休館日 / 毎週月曜日 (但し、祝祭日の場合は要日)

深澤晟雄資料館 〒029-5614 岩手県和賀郡西和賀町沢内字太田 2-6B TEL&FAX 0197-85-3838
深澤晟雄の会事務局 〒029-5505 岩手県和賀郡西和賀町湯本 30-86-10 TEL 0197-81-1722
FAX 0197-81-1723 E-mail: masao@fukasawa.net

深澤晟雄資料館のポスターができ、JR駅や不特定多数のお客さんの出入りする施設に配布しました。ポスターは2種類で上の写真は冬晴れの青空にたたずむ川舟の家を背景にしたものです。ポスター掲示にご協力いただける施設等にご連絡ください。

今年度の深澤晟雄の会総会は6月7日(日) 沢内バーデンで開催します。会員には改めてご案内を差し上げますが、今から日程を調整してご出席ください。

20年度は会員の結束力が町内外の多様な支援を生み出し、日本玉くじ協会助成にもつながり、念願の深澤晟雄資料館は全国から注目される施設として開館できました。21年度の総会でも「会員力」の層と幅を強め、資料館を中心とした活動がより充実発展する年にしたいものです。

総会は6月7日に

「深澤生命行政」を講義

岩手大学で太田理事長

『自分たちで命を守った村』からの報告」と題して本会の太田祖電理事長が岩手大学で講義することになりました。「生命尊重こそ政治の基本」という深澤村長の政治理念が今の若い学生たちの生き方にも深い示唆を与えることになりそうです。

岩手大学の市民参加の新しい講義「いわて新発見講座」で太田祖電理事長が講義することになりました。「持続可能なコミュニティづくり実践学」の一コマまで、先駆的な地域おこしに取り組み首長などが講師となつて実践などを紹介します。

太田理事長には「構造的な不況の中で病院の無床化が進み、健康保険制度が危機的な状況に陥る中で、原点に戻つてそのあり方を考え

資料館は5月10日まで無休で開館

深澤晟雄資料館は4月21日から5月10日まで無休で開館します。5月11日から月曜休館となります。

たい」という視点での出講依頼で「自分たちで命を守った村からの報告」と題して6月4日の講義予定です。

同講座を担当する岩手大学教育総合センターの山崎憲治教授は「深澤晟雄資料館を見学して私が大学院生

時代には沢内村で勉強したことを思い出す。今の学生たちにも自分の生活する岩手県ですばらしい実践が展開されていたことを知ること

は、彼らの生きる方向を示すことにもつながる」と講座の意義を話しています。

「村政は『融和と公平』の精神で」



深澤語録を訪ねて

⑬

昭和36年4月の選挙で深澤村長再選の弁。同年5月発行の「広報さわうち」に掲載された村長就任の挨拶です。民主的で住民主体の自治をめざす深澤村長の政治理念が全編ににじみ出ています。

過去四年間の一期を考え
てみまして、よく大過なく
過ごしてきたものと驚いて
おります。分進秒歩という
ような世相の移り変わりの
早いときに、私のような
動脈硬化的過去の人間が
今日あることを思えば、住

民諸君の温かい分に過ぎる
ほどのご友情の賜物と言葉
も知らない謝辞でいっぱい
でございます。私は指導者顔
などする考えは全くござい
ません。かえって最高指導者
であられる住民諸君の声あ
る声、声なき声を心といたし
まして政治を強力に進めて
参りたいと存じます。

ただ、その場合に融和と公
平の精神を尺度として皆様
の声を実践に移すことが村
長の任務であることを深く
自覚いたしております。耳を
ひっぱったり足をさらった
りする社会を私は激しく憎
みます。自分だけよければよ
いというような利己的社会
を心から嫌います。

住民の声ある声、声なき声に
心するとき、姿勢を正して臨
む村政座談会での深澤村長

そしてこのような暗い不
明朗な社会にならないよう
な社会教育の育成助長に数
多くの値打ちを認めたいと
思います。私は融和公平をモ
ッソーといまして、正しい
認識、正しい判断の横行す
るような、そしてその貴重な
実践が実現するような政治
を推し進めたいと存じます。

………

よろしく願います

4月から深澤晟雄資料館に二人のスタッフを迎えま
した。湯田の小西育子さん(写真上)と川舟の深澤優美
子さん(同下)です。女性なので年齢表示は控えますが
一言メッセージにヒントが……。よろしく願います。

私が生まれたのは、深澤村
長が東北大学に日参して医
師を確保し、病院体制を整え
た年でした。あの時代に自分
の信念を曲げずに国や県に
訴えて行く政治姿勢は私の
尊敬するところ。郷土が
誇る大政治家を全国に、世界
にその名をとどろかせたい
思いで一怀です。

私は全国初の乳児死亡ゼ
ロ達成の年に生まれたひと
りです。豪雪・貧困・多病
の時代を乗り越えられたの
も生命行政あったればこそ
と感謝しています。「深澤」
の同姓に誇りを持って、生
命尊重の深澤精神を自分の
ものとして発信できるよう
頑張りたいと思います。

